

第14回富良野地区定住自立圏共生ビジョン懇談会の開催結果について

1. 開催日時

令和5年11月29日（火）午後5時50分～午後7時30分

2. 開催場所

富良野文化会館 B・C会議室

3. 出席者

委員 10名（欠席委員 4名） オブザーバー 5名 事務局3名

○出席委員

市町村名	団体名	職名	氏名
上富良野町	ふらの農業協同組合	北地区運営委員長	西木 晴彦
上富良野町	かみふらの十勝岳観光協会	会長	青野 範子
上富良野町	上富良野町社会福祉協議会	事務局長	久保田 教之
中富良野町	中富良野町立病院運営委員会	常務理事	高崎 見一
南富良野町	南富良野町社会福祉協議会	常務理事	佐々木 之孝
富良野市	北海道社会事業協会富良野病院	事務部長	菅原 昭洋
富良野市	ふらの観光協会	事務局長	石川 芳
富良野市	ふらの農業協同組合	常務理事	菅原 義人
富良野市	富良野地域人材開発センター運営協会	専務理事	原 正明
富良野市	ラジオふらの	取締役	丸山 太一

○オブザーバー（町村職員）

市町村名	所属名	氏名
上富良野町	企画商工観光課長	狩野 寿志
	企画商工観光課主幹	石川 雅憲
中富良野町	企画課長	酒井 拓美
南富良野町	企画課企画振興係	東海林 孝文
占冠村	企画商工課長	平岡 卓

○事務局

市町村名	所属名	氏名
富良野市	総務部長	関澤 博行
富良野市	総務部企画振興課長	小笠原 竹伸
富良野市	総務部企画振興課企画振興係長	猪股 俊弘

【司会進行：小笠原企画振興課長】

4. あいさつ

【関澤総務部長】

・本日は、夜分、ご多用にもかかわらず、富良野地区定住自立圏共生ビジョン懇談会にご出席いただき

ありがとうございます。私から懇談会開催にあたり一言ごあいさつ申し上げます。

・本日の懇談会につきましては、本年度で第2次富良野地区定住自立圏共生ビジョンの計画期間が終了することに伴います、新たな第3次富良野地区定住自立圏共生ビジョンの策定に向け、7月に開催いたしました懇談会でご承認いただきました策定方針に基づき、素案についてお示しさせていただきます。素案につきましては、第2次ビジョンを基本的に引き継ぐものとして整理させていただいており、ビジョンで示す圏域の将来像、協定項目等の総論については、中長期的な見通しから設定したものであり、具体的な取組を継続的に実施する必要があること、新型コロナウイルス感染症の流行により、事業の実施に大きな影響が見られ、想定した結果に到達していない事業も多く見られることから、第3次共生ビジョンにおいても基本的に第2次共生ビジョンを継承することとし、改定にあたっては主に文言整理、具体的な取組について、見直しを図ることとしております。

・委員各位におきましては、それぞれの地域の代表として、また、専門的な立場での見識に基づきましたご意見、ご助言を賜り、新たなビジョンに反映させていただきたいと考えておりますので、忌憚のないご意見をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

6. 議題

(1) 第3次富良野地区定住自立圏共生ビジョンの策定について

【報告：猪股企画振興係長】

別紙資料1-1、1-2、1-3について提案説明

①資料1-3のパブリックコメント手続き方法について

第13回委員会における委員意見として、「中心市以外でのパブリックコメント手続きを実施しないのか」についての事務局見解について

事務局より

他の6圏域の実施状況を調査し、3地域は中心地のみ、3地域は全ての市町村を対象にパブリックコメント手続きを実施している。富良野圏域の状況として、①原則として、共生ビジョンについては中心市が策定するものであるため、②関係町村の委員も参加しているので意見は反映されているため、③町の手続として、町が作成した計画等のみパブリックコメントを行う制度設計となっているため、④パブリックコメント手続きの制度がない、との理由から第3次ビジョンについては、中心地の富良野市のみパブリックコメント手続きを実施したい。

○策定方針（案）等に関する各委員からの主な意見について

委員名	意見等	回答
西木委員	63ページ懇談会委員名簿の職名修正 北地区運営副委員長→北地区運営委員長へ	(事務局) 修正する。
高崎委員	63ページ懇談会委員名簿の職名修正 委員長→常務理事へ	(事務局) 修正する。
丸山委員	63ページ懇談会委員名簿の職名修正 代表取締役→取締役へ	(事務局) 修正する。

委員名	意見等	回答
菅原（昭） 委員	救急医療の充実の観点で、成果指標では地域センター病院の常勤医師数が掲げられているが、医師だけでなく看護師もいないと救急医療の体制確保が図られない状況となっている。令和元年と比較して看護師は27名減少しており、成果指標の中に看護師の確保について盛り込むことを検討できないか。	（事務局） 数値設定等をどこにおくのか整理が必要のため、担当部署とも協議させていただくので、一度持ち帰らせていただく。
菅原（義） 委員	農業の立場から、鳥獣害対策が大きな課題となっている。駆除にあたり報奨金の支給があるが、弾等も値段や諸経費が上がっているなか、協議会として金額アップを市町村に依頼している。また、罟についても効果があるので、そうした対策を圏域で進めることも必要だと考える。	（原座長） 都市部を中心に駆除に対しての批判もあるが、農畜産物を荒らす有害鳥獣については駆除することが決まっている。適正数を管理していく視点で必要性について更なる発信も必要ではないか。
青野委員	熊に関しては、山に実がないことにより、里に下りてくる状況があると伺った。適正管理が必要と考える。	
高崎委員	熊や鹿もそうだが、ここ数年アライグマも増えてきているので、そちらの対応も必要と考える。	
西木委員	上富良野町の有害対策事業では、約900万円の予算を確保している。市町村によって1頭あたりの駆除単価が違って、ハンターは単価の高い町に比べて駆除していると聞いた。同じことを依頼していて単価が違う、整理できるのであれば整理した方が良いのでは。	（原座長） 駆除単価については、各市町村で持ち帰っていただき、整理できる余地があるのか検討をしてほしい。
丸山委員	熊の出没情報について富良野市は迅速にインターネット・SNSで情報発信をしている。ただ、高齢者等デジタルディバイドと言われている層に対してどのような提供方法があるのか、課題と考える。	
石川委員	情報発信の関係で、自治会が管理しているごみステーションへのごみの投げ方について、観光客がすべて悪いというわけではないが、観光シーズンになると、とんでもないごみの投げ方をしている実態もある。特に外国人等による貸別荘等が増えてきて、住民票を置かないので、市役所でごみのレクを受けることもない。そういう人たちは1回教えれば必ず	（原座長） ごみ処理については、処理する側の論法、市役所や役場によって、地域を巻き込みながら進められてきた。インバウンド等により外国人が増えてきて、今までとは別な発想として、出される立場にたったアナウンスも必要ではないか。

	守るはず、そうした情報提供・教育について形づくるのが重要ではないか。	
丸山委員	外国人への防災情報の提供については、海外から来るので、デジタルディバイド等の心配はないと考える。今、防災情報の発信として自動起動ラジオが道内で導入が進んでいる。このラジオが家庭にあれば間違いなく防災情報が伝わる仕組みとなる。海外の方へ伝えるにはラジオはどうしても日本語になるので、インターネットの仕組みしか現状ないかと思われる。	(原座長) 利用される立場に立った運用が求められる。
佐々木委員	人材確保は全職種で行っているが、まったく反応がない。町で奨学金への助成等の支援を進めたり、人材バンクの登録、学校等へのアピールもしているが、大変厳しい状況となっている。	(原座長) 事業所単位で努力するところも限界があるかと思しますので、少し踏み込んだ対応を関係機関との連携で進めていくことが必要ではないか。
久保田委員	本町でも一見充足しているように見えるが、離職も多い現状となっている。どうして離職が増えるかということ考えたとき、職員の負担が増えている。介護の業務も高度化しており、それを限られた人材と経費のなかで、やり繰りをしなければならぬ、という現状から人が集まりづらい環境となってきた。やりがいやゆとりを職員が享受できる環境となれば福祉職場の人気も復活するのではないかと考えています。	
佐々木委員	仕事はあるが人材がいない。専門職だけでなく事務員も確保できない。実際に業務についても業務の大変さのため、やめていく状況となっている。	
菅原(昭)委員	病院も奨学金の支援等も行っているが、コロナの影響も少なからずあるのではないか。3年くらい前に看護師の奨学生がこれまでは一定は残っていたが、一機にやめてしまった。それからずっと減っている状況である。これからさらに生産年齢人口が減っていくなかで、医療や介護が持つのか不安である。働く人の負担軽減のためにも、IT等を導入するなど負担軽減を図り、人材確保を進めていくことが必要だと感じる。	
青野委員	福祉関連の働き方で聞いたのは、働いている職員が4年間で1回も有給休暇を取っていない	

	い、とろうと思ってもそんな余裕はないと職場の方に言われたと聞いた。そうした環境だとやめていく方も出て、募集をしても集まらない、残った人が大変という悪循環に陥る。今の方は有給も含めて働く環境も重視する側面もあり、そうした環境を作ることが必要と思われるが、そうすると人増やすことが求められ、限られた財源のなかで経営者として難しい判断となってしまふ。	
青野委員	素案35ページの外国人観光客誘致対策事業について、富良野市、中富良野町、南富良野町は事業掲載があるが、上富良野町、占冠村は実施していないのか。	(原座長) 記載方法について、事務局と沿線自治体で整理を行う。
石川委員	外国人観光客の誘致・宣伝事業については、ほぼ富良野・美瑛キャンペーン事業となっている。観光のPR事業については、1自治体だけでやっているケースは少ない。一緒にやっている。	
菅原(義)委員	農協の山部店の店舗の廃止について地域と議論している。利用は農家だけでなく、地域の方もいる。広域的な形や自治体の支援等についても、地域からの声があったので、共有させていただく。また、農産物の輸送については、トレーラー輸送については、運転手が積み替えをしない仕組み、パレット輸送を進めて負担軽減を図っている。	
青野委員	アドベンチャートラベルに広域連携協議会としても関わっていて、これからは体験型の観光が重視される。体験型を進めていける地域が観光面での強さを発揮することになる。	

【原座長】

※以上、多くのご意見ありがとうございました。後ほど気付いた点等あれば、それぞれの市町村の担当者にお伝えください。また、第3次素案については、数点の修正箇所と整理が必要な部分はありましたが、大枠においてご承認をしてよろしいでしょうか。

(全委員承認)

承認をいただきましたので、今後必要な事務手続きを進めます。

7. その他

第15回共生ビジョン懇談会は、パブリックコメント手続きの意見の提出状況に応じて、開催の有無と、会議の在り方、書面会議等も視野に入れて実施する。